

経営体の概要

- 所在地：秋田県湯沢市
- 経営体名：農事組合法人 松岡営農倶楽部
- 栽培作物・作付面積：
 - 水稲部門（主食、酒米、飼料用米、受託） 46ha
 - 野菜部門 4.3ha
- 理事3名、組合員6名、正社員1名、パート6名（R6.4月現在）

導入技術

- ほ場水管理システム（(株)クボタケミックス製）
- 導入面積：延べ1.6ha（6耕区、2団地）
- 導入機器等
 - （用水路側）太陽電池取水ゲート・水位水温センサー6基
 - （排水路側）太陽電池排水ゲート3基
 - （通信中継器）一式（100V、半径5kmエリア）

スマートフォンによる遠隔
操作で給排水の自動制御
（見回り時間の大幅減）



品種ごとの最適な水管理に
より、収量・品質の安定化



導入経緯

- 高齢化等で離農した農地を中心に農地中間管理機構による農地集積を進めてきた。
- 面積の拡大には、主食用米2品種・酒米2品種・飼料用米等、水稲品種の多様化を図りながら対応してきた。
- 一方、熟期の異なる品種に対応するための水管理は複雑化し、非効率だった。また、枝豆、ねぎ、きゅうり等の高収益作物の管理と水稲の水管理が重なり、法人内での労働力確保が難しい状況だった。
- このため、用排水施設の整備・管理を担う雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区（現湯沢雄勝土地改良区）が、国の「農地耕作条件改善事業」を活用し、平成30年度に品種やほ場単位での効率的な水管理を検証するため、ほ場水管理システムを試験的に導入した。

取組の特徴・効果

- 用水路側（取水）については、システムの画面に、ほ場毎の水位、水温、ゲートの開閉情報が表示さる。水位を設定するとゲートの開閉操作を自動で行い、水位を維持できた。
- 排水路側（落水）も、設定高を超えた排水を自動で行うことができ、大雨時の緊急対応が不要になった。
- 意図しないかけ流しといった無駄水を防止。
- きめ細かい水管理の成果として高収量・高品質を実証。
- 多くの農業者が導入できるよう積極的なPRにも務めている

深刻な労力不足の解消へ

圃場水管理システム導入

湯沢市で関係者らが参加し研修会

